

城東区のまちの今

城東区が100人のまちだったとしたら、それぞれこれくらいの人があります。

	人口	165,832人
	15歳未満の人	13.2人 (21,903人)
	65歳以上の人	21.8人 (36,210人)
	※※ 障害者手帳のある人	5.1人 (8,498人) ※※※
	外国人	2.3人 (3,877人)
	世帯数	76,043世帯
	高齢者単身世帯数	9,182世帯 (全世帯の12.1%)

※ 人口、()内の人数、世帯数、高齢者単身世帯数は平成22年国勢調査による実数
 ※※ 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳
 ※※※ 平成23年3月31日時点の人数



城東区 ホホカふくしのまちづくり

地域で取り組まれている、心が温まる活動事例のいくつかをご紹介します。

世代を越えたつながりづくりが地域を紡ぐ

葦地域では、小学生と地域住民の世代間交流が、もう17年続いています。このうち6年生は毎年地域のボランティアの皆さんと一緒に、ふれあいサロンや子育てサロン、介護予防教室などを体験します。「どんな子もこちらが懸命に向き合えば必ず応えてくれる。学校や家庭だけでなく、タテ・ヨコ・ナナメの地域ぐるみの子育てが楽しいんです」とプログラムリーダーの川崎加奈巳さんはにこやかに話します。



ある日の一コマ。牛乳パックを使った手づくり卓球で高齢者と子どもたちが真剣勝負。「いろいろな交流が面白い!」と子どもたち。



地域と福祉施設の協働で見守り力アップ↑

鯉江東地域では、地域と地元の地域包括支援センターや特別養護老人ホームとの協働のもと、訪問などを重ねながら、1年間かけて、独居高齢者などを対象とした地図づくりに取り組んでいます。地域福祉支援員の苫野卓子さんは「普段からの見守り活動や災害時の助け合いなどに活かすために以前からこのような地図づくりが必要だと考えてきました。福祉の専門機関と地域の課題を共有することができ心強いです」と話しています。

身近な企画でグッと近づくご近所さんの距離

聖賢地域では、「人と人とが支えあうみんなでつくるふれあい聖賢」をスローガンに、住民同士のさまざまな交流プログラムが実施されています。その企画のひとつ「タンデム自転車試乗会」では、普段は自転車に乗る機会のない障がい者も一緒に楽しく試乗でき、好評なのだそうです。企画の仕掛人・聖賢アクションプランプロジェクトチームの伊藤春男さんは「近所の障がいのある人たちとも気軽にあいさつができるようになって嬉しい」と話します。



障がいの有無の違いをこえて、心地よい風を楽しみました